

フィリピンにおけるビジネスの可能性

- フィリピン投資環境視察ミッション報告 -

国際機関日本アセアンセンターは、駐日フィリピン共和国大使館と共催にて、2014年3月4日から7日までフィリピン投資環境視察ミッションを派遣しました。

フィリピン経済は、外国直接投資が追い風となり、2013年上半期は ASEAN 域内で最高の GDP 成長率を達成し、「投資適格級」の格付けへと軒並み評価を上げています。進出先として注目の高まりつつあるフィリピンの最新の経済・投資環境とビジネス機会を探りました。



I 投資関係省庁 訪問

貿易産業省 (DTI) に属する二つの投資促進機関、投資委員会 (BOI)、フィリピン経済特区庁 (PEZA) より、最新の経済状況と投資環境について説明を受けました。

フィリピン経済は、2013年の GDP 成長率 7.2%、インフレ率 3.0%以下と安定した成長を遂げています。

BOI によると、2012年の投資認可額 159.2 億米ドルの内、66.9 億米ドルが外国投資です。国別内訳では、1位 オランダ (36%)、2位 日本 (24%)、3位 米国 (14%)、シンガポール、韓国と続きます。2012年度の日本からの投資額は 16.3 億米ドルで、2009年より右肩上がりに増加しており、そのほとんどが製造業 (96%) となっています。

フィリピン投資の魅力の一つとして、英語を話す、若くて豊富な労働力が挙げられます。毎年 47 万人の大卒者のうち、10 万人がコンピューター IT 関係の卒業者です。また、アジア周辺国へ飛行機で 3-4 時間とアクセスが良く、インフラ整備も進んでいます。



フィリピンの投資優先計画 "Investment Priorities Plan 2013" では、アグリビジネスをはじめ、造船、自動車、医療をはじめとする 13 の投資優先分野が挙げられており、BOI、PEZA ともに様々な優遇処置が付与されます。BOI の登録については、事業活動の内容が、現行の投資優先計画 (IPP) に含まれることが条件となります。

フィリピン経済開発庁 (PEZA) によると、フィリピン国内にある 300 か所の PEZA エコゾーンで操業している日系企業数は計 789 社で*、その産業分野は幅広く、電子・半導体、自動車部品、金属部品組み立て、ゴム・樹脂、IT ソフトウェア開発、造船関連などがあります。PEZA は、国内すべての業務・事務所で ISO9001 : 2008 認証を取得、24 時間体制のサービスを提供しています。PEZA エコゾーン内では、輸出型企業に対して、4 年から最長 8 年までの法人税免除をはじめとする優遇処置が与えられ、ワン・ストップ・ショップでの各種申請・許可が行われています。

*出所: PEZA 2013年12月31日現在

JETRO マニラ事務所

フィリピンの 9,640 万人の人口は若年層に厚く、ASEAN 域内でも高い失業率 7.0%により、若くて豊富な労働力と、今後の市場の成長が見込まれています。海外労働者 (OFW) の送金は GNI 値の約 1 割相当を占め、国内消費を支えています。2012年の一人当たり GDP 2,611 米ドル* は、モータリゼーションが進むといわれる 3,000 米ドル間近となっており、2013年の自動車販売台数は、181,283 台と三年連続増加しています。安定した経済成長と、活発な個人消費を背景に、今後のさらなる成長が期待されています。また、フィリピンには多くの日本食レストランがあり、駐在環境は比較的良く、住みやすいとのこと。

*IFM 推定値 (2013年)

II 工業団地視察

マニラ近郊の三つの日系／現地工業団地を視察しました。ニノイアキノ国際空港、マニラ首都圏よりいずれも車で1時間ほど南に位置しています。各工業団地ともに、日本食レストランとPEZA事務所があり、その他、レンタル工場、物流センター、住宅地等の設備が整っています。ゴルフ場も近く、便利なロケーションとなっています。2011年頃より、日系の大手製造業がフィリピンへの新規投資を行ったことにより、関連部品メーカーをはじめとする中小企業からの注目も近年、高まりつつあります。

III 企業訪問

現地企業訪問



工業団地内にて「専属生産ライン」を提供する現地企業を視察しました。建物の部屋ごとに、各企業の生産ラインがあり、進出企業は、同敷地内の設備と人材を利用して、材料・機械と技術・生産行程を持ち込むことにより、初期投資を抑えた迅速なビジネスの立ち上げを行うことができます。生産拡大に合わせて、自社工場へと準備を行う企業が利用しており、敷地内では人材育成も行っています。

日系企業訪問

機械部品を製造する日系企業では、お客様への挨拶や清掃など、丁寧な従業員教育を行っています。礼儀正しい社員を育てることで、工場内の士気を高めると共に、事業拡大にも役立っています。フィリピン人ワーカーは明るく、リーダーシップを発揮する現場マネージャーがいる一方で、一般的に、家族の行事を重視する傾向があります。社員向けのスポーツ大会やピクニックなど交流の場を設けることで、帰属意識を高めると同時に、職場の効率や改善を提案し合えるファミリーのような意識を育てているとのこと。

IV おわりに

2014年3月の「フィリピン投資環境視察ミッション」は、日本とフィリピンの官民の経済交流の機会に合わせて実施されました。「チャイナ・プラス・ワン」、「タイ・プラス・ワン」の流れにより、フィリピンで生産拡大を検討する企業が増加し、中心部のショッピングモールも若者の活気に溢れ、経済の勢いが感じられます。

これまでのフィリピン投資は、既出の日系企業による拡大投資が中心となっていましたが、近年、大手製造業の新規投資により、サプライヤーである中小企業からの注目も高まりつつあります。

ASEAN 10カ国の中でフィリピンは、距離的に最も日本に近い国ながら、フィリピンの経済やビジネス機会については日本ではまだ広くは知られていないため、訪れて初めて、笑顔あふれる明るい国民性や、発展した街並みに驚く企業が少なくないようです。



フィリピン政府も、PEZAをはじめとして、ビジネスの環境改善と透明性の向上に積極的に取り組んでおり、これからの経済発展と国内市場の成長と共に、ビジネスチャンスの拡大が期待されます。

フィリピン投資環境視察ミッション

日程表

期 間： 2014年3月4日(火)―7日(金)

場 所： マニラ、フィリピン

参加者： 14名

	月 日	時間	訪問地	内 容
1	3月4日 (火)	7:30 13:35	成田 マニラ	-直行便にてマニラへ -マニラ着 -投資関係省庁によるブリーフィング:投資委員会(BOI) -フィリピン経済開発庁(PEZA)による ブリーフィング&歓迎夕食会 (マニラ泊)
2	3月5日 (水)	午前 午後	マニラ	-工業団地視察 -現地企業訪問 -日系工業団地1視察 -日系企業1訪問 -日系工業団地2視察 -日系企業2訪問 -日本企業および投資関連機関との懇親会 (マニラ泊)
3	3月6日 (木)	午前 午後	マニラ	-JETRO マニラ事務所からのブリーフィング -市内視察 -Phil-JEC セミナー、夕食会 (マニラ泊)
4	3月7日 (金)	9:20 14:00	マニラ 成田	-直行便にて成田へ -成田空港着